

## 地域おこしをテーマに提言しました

### 改革の姿勢で進言

2月議会は最後から2番目の登壇でした。私は、冒頭「無所属で学んだ個人の信念を大切にしつつ、県議会での力関係を前向きに変えていきたい」と、新会派結成への思いを述べました。そして、知事に対し、財政改革と人事に関して、急ぎ過ぎず、人材を育てる観点からの運営をと、進言しました。

### 障害者の仕事づくりを提案

今議会では、障害者の入所施設「西駒郷」からの地域移行という方針の下、地域にどのような受け皿づくりをすすめるかがひとつの焦点となりました。私は、県予算案が施設整備に偏っている点を疑問に思い、大町でのスクラムネットの活動を紹介

しながら、在宅障害者を対象にした仕事づくりの重要性と施策の現状、今年度予算での対応をいただきました。

### 観光と環境で3つの提案

12月議会に引き続き、環境保全の取り組みを観光振興に生かす施策について提案しました。

ひとつは、大町でNPOが実践し、全国からの視察がある小規模水力発電について、県としての取り組み。次に、星空の映える夜間照明デザインに関する取り組み。そして、大町山岳博物館での低山地での雷鳥研究に対する支援についてです。

また、最後に、予想される大震災への対応として、震災体験車の利用促進と新規導入についても質問しました。

今回の会派参加により、質問

時間が8分から20分になり、多岐にわたる質問ができました。

### 理事者答弁の概要

【財政改革】市町村とは対等の関係の中から、真の地域要望を実現していくために連携していきたい。赤字の原因の下水道事業は県独自のあり方を検討していきたい。（知事）

【人材の育成】自ら道を切り拓く姿勢の職員を育てたい。各種委員会での県外在住者委員はしがらみがあると変えられない分野に登用している。（知事）  
【障害者の仕事づくり】就業訓練の企業委託やコミュニティ

・ビジネスづくりへの支援などで充実を図る。（産業活性化・雇用創出推進局長）

【小規模水力発電】小規模水力発電は有意義であり、推進策が必要。県の電気職員も地域の取り組みに協力できるようにしたい。（公営企業管理者）

【照明環境】地球温暖化防止の観点からも照明環境対策の強化を図りたい。（生活環境部長）  
【雷鳥研究】山岳博物館での検討結果を受けて、県としての支援を検討する。（生活環境部長）  
【防災教育】地震体験車は学校での利用を広げながら、拡充を図りたい。（危機管理室長）

県政の進路を語ろう

## 県民フォーラム

in 大町

緑のフォーラムが初の県民フォーラムを大町で開催します。ぜひ、市民のみなさんの声をお聞かせください。

3月28日(日) 午後2時30分～4時

サンアルプス大町（文化会館南隣）

主催：緑のフォーラム

内容：県議のリレートークと意見交換

参加費 無料

出席予定県議

北山早苗（無所属）、本郷一彦、服部宏昭、村石正郎、木下茂人、清沢英男、丸山賢二（以上、緑のフォーラム）

発行：丸山けんじ県政調査室

住所：大町市仁科町 3300（〒398-0002）  
Tel.&Fax.22-1035 担当：傘木宏夫

## 県政改革の焦点を県民の目線からチェック

【2月議会】村石正郎議員が代表質問

平成16年度予算などを審議する定例2月議会の代表筆問で、3月5日、緑のフォーラムからは副代表の村石正郎議員が登壇し、県政改革の過程で生じている問題や課題を、県民の願いをかなえる立場から指摘し、知事ら理事者の姿勢をただしました。

まず、「三位一体の改革」が真に県民生活と地域経済の再生につながるようになるための国への働きかけについて質問。次に、知事のトップ公約である「スリー・バイ・スリーによる新たな産業と雇用の創出」について、その具体化の状況をただしました。村石議員は「言葉遊びにせず、今後の展望を県民に示すべき」と指摘しました。

また、人事や組織改革、住民票問題においての、知事の偏向やわかりにくさについて指摘し、県民や県職員に理解されやすい舵取りを促しました。

施策では、福祉、教育、産業、警察などの多岐にわたり、具体的な問題点の指摘と対案で各部長に質問しました。

特に、村石議員が系統的に取り組んでいる入札改革問題では、談合防止策を偏重したため、下請けいじめや大量リストラとなつてあらわれていることを事例やデータに基づき指摘。議場からも「そうか、えらいことだな」といった声が漏れていました。

また、今年「国際米年」でもあり、農業と米作について重視して質問しました。村石議員は、県の側に明確な目標やビジョンがないと指摘したうえで、兼業農家や小規模農家が農地を守り育てられるモデルなど、「農業関係者が一丸となつて取り組める

明日の長野県農業の展望を一刻も早く示すべき」と迫りました。

これらの質問に対し、知事をはじめ理事者側の答弁には具体性が欠けていたものの、村石議員の指摘が十分に配慮すべき課題であることを認めるものでした。

今後、緑のフォーラムでは、答弁内容をよく分析し、6月議会以降での県政チェックに生かしていく考えです。

### 一般質問に3氏が登壇

緑のフォーラムから、木下茂人、清沢英男、丸山賢二の3議員が一般質問に登壇。

木下茂人議員は、阿智村での廃棄物処分場計画の図面を壇上で掲示しながら、県の計画性のないすすめ方により、地元で疑心暗鬼を招いていると、県の説明責任をただしました。知事は、環境影響などの見通しの甘さなどを率直に認め、陳謝しました。

清沢英男議員は、国道403号の改良問題を例に、コモンズとしての地域社会からの要望に対する行政の姿勢をただし、県が道路整備の展望と優先順位を示すことなどを提案しました。知事は「前向きな提案」と歓迎しながらも、コモンズの意思への対応という質問の本質には触れませんでした。

新会派「緑のフォーラム」です。

代表 本郷一彦（松本）  
代表 服部宏昭（上水、大岡）  
副代表 村石正郎（須坂、上高井）  
幹事長 木下茂人（伊那）  
総務会長 丸山賢二（大町）  
政調会長 清沢英男（東筑摩）

